

鹿児島の地質45

自然がつくる不思議な地形・奇岩

地質担当 多久島 徹

鹿児島県には、不思議な地形や奇岩がたくさんあります。中には地域のシンボルや観光名所になっているものもあり、学術的に価値が認められたものは、国や県、市町村の天然記念物にも指定されています。これらの地形や奇岩は、波浪や川の流れなど自然の力によって作り出され、地域の岩石の性質によって異なった形になります。

今回は薩摩半島南西部の不思議な地形や奇岩を紹介します。

海蝕双橋(かいしょくそうきょう)

枕崎市火之神岬町大迫の海岸には、二つの大きな穴が開いていて、まるで橋がかかっているように見える岩があります。高さ約10m、幅約12m、穴の高さは両方とも約6mのあります。もちろん人がつくったものではありません。岩の割れ目に波が当たって削られてできたものです。波によって穴ができた地形を見かけることはありますが、このように2つがセットになっているのは非常に珍しいものです。



海蝕双橋

この岩は今から数百万年前の凝灰岩や凝灰角礫岩などからなります。凝灰岩は火山の噴出物で、比較的柔らかく、波な



下から見上げると…

ども削られやすい特徴があります。

この岩は「海蝕双橋」とよばれ、平成29年4月21日に枕崎市で初めて、県の天然記念物に指定されました。

立神岩(たてがみいわ)

枕崎市の火之神公園の海岸沖には海面から突き出た「立神岩」と呼ばれる岩があります。



立神岩

高さ約40mで安山岩できており、安山岩の固い部分が削られずに残ったものです。

双剣石(そうけんせき)

枕崎市のお隣、南さつま市の坊津は、リアス式海岸の断崖が続く絶景から、国の名勝にも指定されています。この海岸では大小の剣を立てたような奇岩「双剣石」を見ることができます。高さがそれぞれ約27m、約21mもある岩体です。

この地域の基盤は恐竜がいた中生代白亜紀という時代の四万十層群と呼ばれる地層で、砂岩や頁岩の互層からできています。砂岩は固くて割れにくく、泥岩は割れやすい性質があります。四万十層群は地層が大きく傾いているので、泥岩層が削られ、固い砂岩層が切り立ったように残っているのです。

江戸時代の浮世絵師として知られている歌川(安藤)広重もこの双剣石を見ていたと感動し、美しい絵を後世に残しました。



双剣石

その他の地域でも

関之尾滝や天降川の甌穴(おうけつ)、南九州市の天然橋、奇岩で有名な下甌島のナポレオン岩など、県内にはまだまだ多くの不思議な地形や奇岩を見ることができます。

もしかしたら、皆さんの近くにもまだ誰も気付いていない不思議な場所があるかもしれません。